

「ゼロカーボン北海道」タスクフォース・地方支分部局レベル会合（第1回） 議事概要

令和3年8月17日（火）
10:00～11:15
札幌国際ビル貸会議室 国際ホール

1 開会

2 挨拶

●環境省 地球環境審議官 正田寛（オンライン出席）

本日は大変お忙しい中、お集りいただきまして誠にありがとうございます。本来であれば、会場に参り、御挨拶させていただきたいと考えておりましたが、現在の新型コロナウイルス感染拡大の状況に照らしまして、オンラインによる挨拶とさせていただきました。今後状況が落ち着きましたら、ぜひ現地に赴き、様々意見交換させていただきたいと考えております。

本タスクフォースは、今月4日に政府に設置されたものであり、本日はその地方支分部局レベル会合の第1回となります。本日は知事にも御出席いただいているとのこと誠にありがとうございます。この度、「ゼロカーボン北海道」における知事の多大なるリーダーシップにより、このような場の設置を実現するに至れたこと、この場を借りて、感謝申し上げます。

さて、昨年10月に総理が2050年カーボンニュートラル宣言を行ったことは御承知のとおりでございますが、政府においては、国と地方が協働して地域における2050年脱炭素社会の実現を目指すため、昨年12月より「国・地方脱炭素実現会議」を開催し、ロードマップやそれを実現するための関係府省・自治体等との連携の在り方などについて議論してきました。

その結果は、本年6月9日に「地域脱炭素ロードマップ」として取りまとめられました。今後は、当該ロードマップの実践に向けて、国と地方が様々な場を通じて相互に継続的な意見交換を行い、連携していくことが求められます。

「地域脱炭素ロードマップ」では、地域における取組の実施体制について、次の2つの内容が明記されています。1つ目は、地域において、地方自治体・金融機関・中核企業等が主体的に参画した体制を構築すること、2つ目は、地方支分部局が水平連携し、機動的に支援を実施することです。1つ目については、北海道が本年6月に立ち上げた「ゼロカーボン北海道推進協議会」がまさにこれに当たるものと認識しており、2つ目については、本日の会合がそのキックオフとなることを期待しております。

タスクフォースの設置趣旨にもありますが、北海道におけるゼロカーボンの取組は、農山漁村、都市部の街区などの多様な地域において、エネルギーシステムの整備、交通・物流基盤、まちづくり、ツーリズム、農林水産業の脱炭素化など広範にわたります。再生可能エネルギーのポテンシャルも全国的に見ても極めて高く、脱炭素のモデル事例創出の宝庫となる地域です。

「地域脱炭素ロードマップ」では、脱炭素ドミノの実現に向け、環境省が中心になって関

係省庁で連携し、2030年度までに少なくとも100以上の「脱炭素先行地域」をつくることとしております。そのための支援措置についても、8月末の概算要求に向け作業を進めているところです。脱炭素先行地域の考え方や選定スキーム等についても、今後、順次、明らかにしていきたいと考えていますが、各地方支分部局の皆様におかれては、タスクフォースで忌憚のない意見交換を行っていただき、是非、ゼロカーボン北海道の実現に向けて、一体となって北海道を伴走支援できるよう体制の構築を進めていただければと思います。

最後になりますが、今般の地方支分部局のタスクフォース会合は、地域脱炭素ロードマップで示された連携枠組みを全国で初めて具体化したものであり、北海道の取組が我が国における地域脱炭素の先導役となれるよう、そして本タスクフォースを意義あるものとするよう、しっかりと支援の形を検討してまいります。事務局である北海道地方環境事務所もしっかり汗をかきますので、皆様におかれましても御協力を賜れますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。

●鈴木直道 北海道知事

ゼロカーボン北海道、そして国のカーボンニュートラルの実現に向けまして、各省が連携したタスクフォースということで、全国初の枠組みが作られ、そして、地方の各局長・所長が大変お忙しい中、ゼロカーボン北海道実現のためにお集まりいただき、本省と、この北海道の地の両方でタスクフォースができる、このことを大変心強く思っています。そして本日このような発言の機会を皆様に使っていただいたことにお礼申し上げます。

私が重ねて言うまでもありませんが、骨太の方針にゼロカーボン北海道を明記いただきました。国が推進する政策として位置付けられたこと、まさに異例かつ画期的なことだと思っております。骨太の方針にこの「北海道」という文字がはいつて、ゼロカーボンが日本全体の大きな方向性であるなかでこういった表記が入ったということ、大変嬉しく思っています。

先般ちょうど1か月前くらいになりますが、7月14日に官邸にお伺いして総理にもこのゼロカーボン北海道推進していくにあたっては、例えば環境省ですとか経済産業省ですとかいわゆるエネルギーや環境問題を取り扱う省庁のみならず、全ての省庁の皆様と連携していくなかでゼロカーボン北海道を実現していく必要があるのではないのかと直接申し上げました。総理からもタスクフォースというまさに横串連携ということで、その必要性について言及があったのが1ヶ月前の7月14日ですから、現在までの間、非常にスピード感をもって前例なきタスクフォースを設置いただいたことを心強く思いますし改めて深く感謝申し上げます。

報道でもありましたが、IPCCが公表した報告書がありました。このなかで地球温暖化について人間活動の影響は疑う余地ないと明確に記載されたところでもあります。これまでの報告よりも10年早く、今後20年で気温が1.5度上昇する可能性があるということです。この道内でみますと7月の平均気温が平年を2.8度上回りました。皆さんも非常に暑かった、北海道なのにこんなに暑いのかと実感された方が多かったと思います。1946年の統計開始以来最高となりました。こうした気象の変化によって本道における自然災害の増加、農林水産業への影響、深刻化するのではないのかと懸念の声がよせられております。

こうしたことから骨太の方針や成長戦略実行計画などで示されましたグリーン社会、強い決意をもって実現していかなければならないと考えておりました、先ほどお話にもありましたが、全国随一の再生可能エネルギーのポテンシャルを有する北海道。そしてCO₂の吸収源となる広大な森林を有する北海道。この北海道が果たすべき役割は非常に大きいものがあると認識しています。そしてゼロカーボン北海道の実現に向けて本道のポテンシャルを最大限に生かすためには、道内の送電網の強化、北本連系線の増強などの新たな基盤づくり、次世代データセンターの誘致といった地域の特性に応じたプロジェクト、さらには豊かな森林づくりの推進、排出事業者との取組など、タスクフォースの設置によって、一元的に推進して一層加速化されることで、北海道発の意欲的な取組が全国で展開されることとなる、そういった先導役になることを皆さんと共に実現していきたいと思っております。

道としてもこの動きに呼応する形で、先週13日に現行体制を拡充強化しました。新たにゼロカーボン推進局を設置しました。本日は新設した局の監にも出席してもらっています。我が国のカーボンニュートラルへの貢献と本道の地域の発展、両者の実現をしていかなければいけないと考えております。道内各地におけるゼロカーボンの取組、地域が潤うための起爆剤として、より高いレベルでの環境と経済の好循環につなげていきたいと考えています。今日はキックオフでありますので、ゼロカーボン北海道実現に向けてあらゆる政策を皆様とともに総動員して、オール北海道でこの取組を加速していきたいと考えておりますので、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますよう、心からお願いを申し上げます。本日から、引き続き、皆様よろしく申し上げます。

3 構成員等の紹介（挨拶）

●櫻井洋一 北海道地方環境事務所長

本日は各地方支分部局長、鈴木知事、副知事はじめ道庁関係者に参加いただき、誠にありがとうございます。先ほど正田地球審議官から御紹介がございましたが「地域脱炭素ロードマップ」では、サブタイトルが「地方からはじまる、次の時代への移行戦略」となっております。すなわち地方からということですので、脱炭素に向けた様々な取組の主役は「地方」であります、国はそれを全力で支援する立場と認識しております。

本日、ここ北海道で立ち上がりましたタスクフォースは、各地方支分部局が北海道と連携して、地域脱炭素ロードマップを実現していこうとするものですが、さきほど知事からお話もありましたが、北海道は、再生可能エネルギーやCO₂吸収源である森林のポテンシャルが大きく、大きな可能性を持っておりますので、まさに全国に先駆けるにふさわしいものと考えております。是非とも本日御参集の皆様方と一緒に、脱炭素を実現し、様々な事業の実施による地域活性化も実現していきたいと考えております。

私ども、北海道地方環境事務所が事務局という重責を担うこととなっております。後ほど担当から本タスクフォースの役割や北海道との連携について説明させていただきますが、事務局としての責務をしっかりと果たしてまいりますので、皆様の御協力を何卒よろしくお願いいたします。

●豊嶋基暢 北海道総合通信局長

総務省北海道総合通信局においては、このテーマにつきましては、直接というよりはデジタル活用という側面支援ということになるのかなと思っておりますので、皆様の取組を支えるような役割を果たしていければと考えております。具体的に申し上げますと、ブロードバンド環境の整備、市町村のデジタル利活用の支援が北海道総合通信局の主な役割だと思っております。

ブロードバンド環境の整備につきましては、昨年度及び今年度の事業で北海道は順次整備を進めております。今年度104の市町村におきまして、約1万8000キロの敷設工事を順次進めておりますので、デジタル活用の大きな基盤となるものと考えております。今年度には管内のほぼすべての世帯の整備を完了する見込みですので、これを十分御活用いただけるようにさらに推進していきたいと思っております。

通信環境におきましては、5Gあるいはローカル5Gの推進に取り組んでおり、携帯各社が提供する5Gは前倒しで整備を進めております。これらを活用したスマート農業等については、様々な自治体の実証事業を進めておりますので、今後とも、ビッグデータの活用、リモートワーク環境の整備等、皆様を支えていけるような施策を講じてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●山田英也 北海道農政事務所長

まず、北海道庁の「ゼロカーボン北海道」のイニシアチブに深く敬意を表します。そして、これに対する国の支援は、各省が力を合わせる事が重要と承知しており、タスクフォース、そして、国・地方脱炭素実現会議の北海道ベースの取りまとめをしてくださる北海道地方環境事務所に御礼申し上げます。

農林水産業は北海道の基幹産業であり、脱炭素の取組の中で、農林水産業の持続的な発展は北海道の将来にとって極めて重要と認識しておりますので、農政事務所としても、北海道庁のイニシアチブを全面的にバックアップさせていただきたいと考えております。

その関連ですが、参考資料1を紹介させていただきたいと思っております。「みどりの食料システム戦略」と題しておりますが、今年の5月に農林水産省が中心になって策定し、骨太の方針や成長戦略実行計画にも盛り込まれた政策指針です。2050年を目標として、食料・農林水産業の生産力の向上と持続性を両立させ、地球環境に優しい産業に変革しようというものです。今後様々なイノベーションが必要ですが、それを前提として、CO₂のゼロエミッション、肥料や農薬の使用量の低減、有機農業の拡大等を進めるものでして、生産だけでなく、加工、流通、消費に至るまで幅広い取組を進めることとしています。これはまさに北海道の「ゼロカーボン北海道」、「クリーン農業」の考えと一致するものと考えております。

「みどりの食料システム戦略」を進める上で、北海道、関係省の取組と連携させていただきたいと考えておりますので、戦略の御紹介方々お願い申し上げます。

●猪島康浩 北海道森林管理局長

北海道森林管理局では、道内約300万ヘクタールの国有林を管理しています。国有林の他に道有林、私有林含めて、全国の森林の約2割が、この北海道にあります。このうち先人たちが戦後植栽した人工林が約150万ヘクタールありますが、半分が利用期を迎えております。この利用期を迎えた豊富な森林資源を「伐って、使って、植える」といった循環利用に積極的に取り組んで、森林吸収源の確保、強化を図ってゼロカーボン北海道の実現に貢献したいと考えております。また、木材は加工時のエネルギー消費が比較的少なく、木質バイオマスとして化石燃料の代替となるなど、CO₂排出削減にもつながります。また伐採した木材を建築材等で利用することで炭素を長期間貯蔵できるので、道産木材の利用促進も有効と考えております。折しも、先の通常国会で公共建築物等木材利用促進法が改正され「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」という法律になり、これまでの公共建築物に加えて民間建築物においても木材の使用を推進していくこととなりました。こうした新たな制度の普及も行いながら、道産材の利用促進も含めまして、各地方支分部局と連携して北海道の取組をバックアップ、支援していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

●池山成俊 北海道経済産業局長

北海道地域におけるゼロカーボン実現に向けて、私共としても関係機関、道庁と連携して機能的・効果的な支援をしていきたいと思っております。我々経済産業省の取組ですが、2050年カーボンニュートラル実現に向けて経済と環境の好循環を作り出していくことが重要と考えておりまして、そのための産業政策でありますグリーン成長戦略にもとづいてイノベーションを起こす企業、この前向きな挑戦を後押ししているところであります。今後も産業構造変革、経済成長を進めていきたいと思っておりますし、支援していきたいと思っております。また、現在改定中ではありますが、第6次エネルギー基本計画におきましても、安全確保を大前提としつつ、安定で安価なエネルギー供給の確保、それから気候変動への対応を進めるというエネルギー政策の大前提である「S+3E」の大原則をこれまで以上に追及していくために、あらゆる政策を総動員していきます。

こうした中で北海道については、「2050年における主力電源として最優先の原則のもとで最大限の導入に取り組むことになっている」再生可能エネルギーにつきまして、さきほど知事からも話がありましたが、北海道全国トップクラスのポテンシャルを有しているところであります。また、イノベーションについても例えば石狩市において洋上風力発電の余剰電力を利用しまして水素利活用に向けた調査事業を開始しておりますし、さらには苫小牧市においては、日本初の大規模CCS実証実験が行われておりまして、今後はCCUSの拠点としてさらなる取組も期待されているところであります。当局としましても再生可能エネルギーの地産地消や脱炭素に取り組む市町村、地域の皆様から現状や課題を伺いまして、道庁、関係機関の皆様、そして本省関係部局と連携しながら、北海道のゼロカーボンの実現に向けていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

●橋本幸 北海道開発局長

北海道地方環境事務所の皆様、御準備も大変だったかと思いますが、本当にありがとうございます。北海道開発局は、河川、ダム、道路、港湾、農業基盤、漁港等、社会基盤の整備を行っている組織です。配布資料の末尾に参考資料をつけております。資料に記載がありますように、エネルギーを直接所掌しているわけではありませんが、本来の役割である社会資本整備を進めると同時に、ゼロカーボンに資するものがたくさんあると思っており、そうしたものを少しでも集めて、少しでも役割を果たしていきたいと考えております。各省、道庁と一緒に、前向きで面白い取組にできればと思っております。よろしく申し上げます。

●加藤進 北海道運輸局長

国土交通省においては、この7月に政府目標である2050年カーボンニュートラル実現を目指して、国土交通グリーンチャレンジを作成しました。これは2050年を念頭に当面の10年間、2030年に向けて6つの重点プロジェクトを掲げておりまして、その中でも特に運輸局に関係する交通では、例えば自動車のデジタル化、自動車の電動化に対応した交通、物流、あるいはインフラシステムの構築、さらにデジタルとグリーンによる持続可能な交通・物流サービスの展開、あるいは港湾、海事分野におけるカーボンニュートラルの実現やグリーン化の推進などの取組が盛り込まれたところでありまして、今後この実現に向けてさらに具体的な取組を進めていくこととしています。また省を挙げての取組体制ということで、赤羽国土交通大臣を本部長とする国土交通省グリーン社会実現推進本部を設置しまして、省を挙げた取組体制を整備するとともに、これからの国土交通省の施策の基礎にカーボンニュートラルの考え方を位置付けて、脱炭素が主流となる社会の実現に向けて取り組んでいくと打ち出したところでもあります。

一方、観光の関係では、今年の9月20日～24日にかけてアジア初となるAdventure Travel World Summit (ATWS) バーチャル北海道ジャパンが開催されます。このサミットの開催を契機に環境や文化を守りながら地域経済に貢献できる持続可能な観光の実現に向けた取組がより一層求められてくると思います。北海道運輸局も、交通面、あるいは観光面において、道庁、関係者と連携してゼロカーボン北海道の実現に向けてオール北海道の一員として取り組んでまいりますので、どうぞよろしく申し上げます。

<オブザーバー>

●北海道副知事 小玉俊宏

冒頭知事からも申し上げましたが、骨太の方針にゼロカーボン北海道が明記され、各省庁で構成される支援体制を構築いただきましたことは、なによりもゼロカーボンの取組への後押しになると考えております。感謝申し上げます。ただいま、各道内の、各分野のトップの皆様から大変心強いコメントいただきまして心より感謝申し上げます。今後の協力のお願いとしては、ゼロカーボン北海道の実現に向けては、地域の実情に精通した皆様と連携共同し、目指す姿を見据えながら取組の見える化を進めるとともに、デジタル化の取組との連携など、分野横断的な視点をグリーン分野の成長に確実につなげていくことが重要だと考えており

ます。そういった思いも皆様と共有しながら、本道が有する豊かな再生可能エネルギーや森林などの吸収源を最大限活用し、北海道が国の地球温暖化対策を先導する、こういった強い意志をもって取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御協力をよろしく申し上げます。

●北海道環境生活部ゼロカーボン推進監 今井太志

8月13日付けで道におきますゼロカーボンの取組を強化するため、私をはじめとして10人ほど体制強化し、ゼロカーボン推進監、ゼロカーボン推進局を環境生活部内に設置したところであります。私のもとには、全体で34名のチームでゼロカーボン北海道、そして気候変動等への対応に取り組んでいきたいと考えております。今回こういった場に参加させていただき、また道の取組を御紹介いただく機会をいただきまして、感謝いたします。今後も道としても精いっぱい取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

4 議題

(1) 地方支分部局レベル会合について

- ・事務局より、以下を実施。
- ・資料2「ゼロカーボン北海道」タスクフォース・地方支分部局レベル会合運営要領（案）を説明。承認された。
- ・資料3「ゼロカーボン北海道」タスクフォース・地方支分部局レベル会合幹事会の感触の指定について（案）を説明。承認された。
- ・資料4「ゼロカーボン北海道」タスクフォース・地方支分部局レベル会合 説明資料を説明。

(2) 「ゼロカーボン北海道」について

- ・北海道環境生活部ゼロカーボン推進監 今井太志氏より、資料5「ゼロカーボン北海道」説明資料を説明。

(3) 今後の予定について

- ・事務局より、資料6今後の予定（案）について説明。承認された。

【会合で出た意見】

- ・今後の予定については本省レベルのタスクフォースとの事前の共有はされているのか。
⇒（事務局回答）事前に共有しているところ。
- ・各省予算がどの程度紐づくか不明だが、直観的には政府案決定の前に地方のなんらかの動きが必要なのかと思ったところ。それを鑑みると、全体予定を1か月程度前倒す必要があるようにも感じた。ただ、本府省レベルのタスクフォースとの足並みとそろっているということであれば、あとは事務局にお任せしたい。本府省の動きに合わせて前倒しが必要だということであれば、協力させていただきたいと思う。

⇒（事務局回答）本府省レベルの動きも綿密に情報収集していきたい。

5 閉会